

井野小学校

井野小学校区の伝統行事「ほんげんぎょう」は学校で行うようになって今年で4回目を迎えました。この「ほんげんぎょう」は学校、地域、家庭の三者が一体となって実施されています。まさに、地域に誇りをもち、地域を愛し、いずれ地域を担う子どもたちを育てるすばらしい行事です。

朝、8時、地域の方やお父さん方が井野小学校の裏の井野山から竹を切り、やぐらを作ります。当然のことながら、手慣れてあって、やぐらはあつという間に完成です。会が始まり、先生の司会のもと、それぞれの学年の子どもたちが創意工夫し、大きな声で1年間の決意表明をします。子どもたちの元気一杯の姿を見て、地域や保護者の方もとても安心されています。

その後、年男、年女（大人も子どもも）が火入れをします。あつという間にやぐらは炎に包まれ、天高く燃え上がります。持てこられたお正月のしめ飾りやお守りも燃え、無病息災を祈ります。寒空の中、竹がポンと大きな音を立て燃え、初めて見る1年生の子どもたちは大はしゃぎです。

その間、地域の方とお母さん方は、前日から子どもたちと準備したぜんざいを火にかけます。

やぐら全体が充分に燃えてきたところで、5、6年生の子どもたちは、二人一組になってお盆にぜんざいとお漬け物を載せ、地域や保護者の方々に振るまいです。子どもたちの気配りが大変かわいらしくて微笑ましい限りです。地域や保護者の方々にぜんざいが振るまわれた後、やっと子どもたちの食べる番です。鍋の前に列を作り、満面の笑みです。

やぐらの番をしていらっしゃる地域の方やお父さん方は、ぜんざいを召し上がられたでしょうか。燃えたやぐらの火の最後の始末をされています。火の粉が舞う中、「今年はよう、きれいに燃えたなあ」とお互いに言いながら。その姿が大変頼もしく、子どもたちは、「こんな大人になりたい」と思うにちがいありません。

地域の方やお父さん方が、5、6年生に声をかけます。「手が空いてるもんは、来い。」燃えた後の灰を子どもたちと一緒に片付けるためです。火があり、危ないところは大人が、ほぼ火も消え、灰を運ぶところは子どもたちと。当たり前のようですが、何とも粋なはからいで、子どもたちはお客様ではなく、この伝統行事「ほんげんぎょう」と共に創り上げているのです。男の子も女の子も、続々と集まり灰を運びます。ちょっと大人の仲間入りをした気分で、「もっと灰を入れてください。」と大活躍です。「重いぞ。大丈夫か？」と声をかけられ、誇らしき氣です。低学年、中学年の子どもたちも、自分の椅子やぜんざいの鍋を運んだりと進んで手伝います。きっと来年は、灰を運ぶお手伝いもしたいと思っていることでしょう。

あつという間に、いつもの運動場の姿に戻り、参加したみんながすがすがしい気持ちで「今年もきっといい年になる」と確信し、「ほんげんぎょう」は幕を閉じました。大成功です。すばらしい地域に育つ子どもたちだと改めて感じました。



見事に完成したやぐら



年男・年女による火入れ



勢いよく燃えるやぐら



燃え上がるやぐらに大歓声



どうぞ、召し上がってください



お楽しみのぜんざい



火が消えるまでは大人の役目



「よし、頼むぞ！」「ハイ！」

コミュニティ・スクール（=CS）通信@UMI

3つの輪

平成27年3月

第9号

宇美町教育委員会



平成26年度 第2回学校教育推進協議会開催

3月3日（火）に、平成26年度 第2回学校教育推進協議会を開催しました。

開会の挨拶で、宇美町教育委員会毛利公亮教育委員長は、学校運営協議会の委員の皆様に、一年間、学校の様々な教育課題解決に参画していただいたことに感謝の意を表すると共に、「コミュニティ・スクールは、『宇美町を担っていく子どもたちを育んでいる』という認識のもと、より一層、地域や各家庭にコミュニティ・スクールを周知していただくようご理解、ご協力を賜りたい。」と述べられました。



各小中学校の発表を聞く参加者

その後、各校長先生方より、学力や体力の向上、いじめ・不登校の問題、清掃活動や読書活動、そしてコミュニティ・スクールの推進等について、その取組と成果、課題をご報告いただきました。参加者からは、「どの学校も学力、心、体の3つの柱を中心にコミュニティ・スクールを活用した取組になっていた。小学校と中学校が連携して子どもを育していくことが大切だと思った。」（保護者）「来年度はすべて中学校区でのCSフォーラムが実施されるので、さらに今後の活動を充実させていくと共に、子どもの健やかな育ちを願い参加していきたいと思う。」（地域）「各学校のめざす児童生徒の姿は共通する部分が多い。そこに向かうための手立ては各学校で違うが、目標が共有されているので、みんなで宇美町の子どもを育てているのだと実感した。」（教職員）等の感想がありました。

最後に、福岡県教育庁福岡教育事務所川島耕司主幹指導主事より、各学校の取組の良さをまとめていただきました。（次ページに掲載）そして、宇美町のコミュニティ・スクールの今後の方向性について、「教育は、響育であり、共育である。それを効果的に行えるのはコミュニティ・スクールである。学校と地域が寄り添いながら同じ方向を見て協働することが大切。それが、『まちづくりの主役となる人』を育てることになり、ひいてはまちづくりそのものになる。これが円滑に進めば、小中連携が一層強化され、9年間で児童生徒を育てることが自然に行われるようになる。コミュニティ・スクールづくりは、学校づくりであり、地域づくりである。その意味でコミュニティ・スクールと地域コミュニティが重なるのは自然ともいえる。宇美町のコミュニティ・スクールの充実とまちづくりが両輪というより、自然に重なっていくことを期待したい。」と示唆していただきました。



講評をされる川島耕司主幹指導主事

編集後記

本年度も、学校運営協議会の皆様をはじめ、地域や保護者、先生方のおかげで、学校運営協議会を中心とした活動が充実してきたことを感じます。今後も、めざす子ども像を共有し、三者が本気で語り合い、できることを見いだし、それぞれの役割と責任を担いながら実践につながることを願っています。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

宇美町教育委員会学校教育課

宇美町宇美5丁目1番1号

電話 934-2245

FAX 933-9211

E-mail : gakkou@town.umi.lg.jp



川島主幹指導主事の講話より



第2回学校教育推進協議会において各学校の良さをまとめさせていただきました。

宇美中学校区



宇美小学校

「到達可能な目標に向かって、効果的な手立てを、組織的に進める学校」

校長の学校経営の方針が明確で、一貫性があるので、コミュニティ・スクールを動かす役割を担う学校運営協議会も、学校と同じスタンスで学校の教育活動を支援し、子どもたちの成長を見守ることができている。子どもが「誇り」をもてるよう、たくさん的人が、子ども一人一人のよさや頑張りを認め、普段から、子どものよさを見とっていく、「やさしいまなざし」があふれるコミュニティ・スクールになっている。



井野小学校

「めざす子どもの具体的な姿に向かって、子どもと教師と保護者が一体となって基本的なことを前向きに取り組む学校」

先生方は、子どもの学力や学びの傾向を分析し、その結果をもとに取組を進めている。そして、地域や保護者に、学校便り等によって子どもたちの様子を丁寧に伝えているので、地域や保護者の方も子どもたちの状況を理解している。このことによって、学校、家庭、地域がそれぞれの立場でできることは何かを考え、実践につなげることができている。コミュニティ・スクールを通して井野の子どもたちを共に育していく仕組みができている。



宇美中学校

「学びの基盤を土台として、生徒が自らを磨き高め、つながりを広げる指導に取り組む学校」

挨拶、清掃など、当たり前のことを徹底して行うことや生徒会活動の活性化、地域清掃活動など、生徒の自主的な動きを中心とした教育活動である。保護者や地域の方は、生徒の姿を通して、学校の指導の在り方等を理解し、支援できる。生徒の人間関係力やルールの遵守など社会性の高まりは、「まちづくりの主役になれる人」の育成につながっており、生徒の育ちを前面に出したコミュニティ・スクールになっている。

宇美南中学校区



原田小学校

「的を絞った目標を共有し、組織的な連携を生かして意図的、計画的に成果を生み出す教育活動を行う学校」

家庭学習の親子教室や地域の方の学習支援、見守り隊等、組織的な仕組みが充実しており、校区で子どもを育てる風土、環境が構築されている。そのため、子どもたちは、社会と関わったり、貢献したりすることの大切さを実感している。これは、この数年にわたる、地域情報交流集会や中学校区のCSフォーラムなど情報交換の場が設けられたのが大きい。これが、本来存在する地域力の再生につながる。



宇美南中学校

「生徒の実態をもとに先生方が検討・共通理解して絞り込んだ取組を、着実に実施する学校」

学校から地域に何ができるかという「地域貢献」の視点を大切にしている。「地域の中の学校」として、生徒が地域の方とふれあい、心の交流を図り、環境美化にも参加する活動があり、まさに、宇美町に住み、宇美町の将来を担う市民の資質を身に付けていく大切なプロセスがとられている。主体的な学びと豊かな人間性をもつ生徒が、地域を担う力を身に付ける教育活動ができている。

宇美東中学校区



宇美東小学校

「子どもたちの実態や指導の状況を丁寧に見取りながら、取組の手立てを最適化させて成果を生み出す学校」

学力向上と道徳・健康教育の両輪を動かすエンジンとして、効果的にコミュニティ・スクールを活用している。学校運営協議会が、学校を支える地域の方の力と学校をどのように結び付けるかを、真剣に協議し実践している。地域の方から「先を見据えた夢をもち、志をもっての指導をお願いいたします。」という温かい言葉がいただけるのは、地域が学校を応援していることの現れであり、地域の中の学校としての信頼と期待が込められている。



桜原小学校

「学校の教育活動に、地域の方々が、様々な場面で関わることができる環境づくりが進んでいる学校」

学校の重点目標を学校と家庭、地域が共有することを重視している。とりわけ、ルールやマナー、モラルの大切さは、学校の指導だけでなく、地域の力も大きい。また、挨拶や清掃等、豊かな心は、地域の方との関わりの中でも育まれる。本校のように、三者が、同じ目的、足並みで進むという基本スタンスがコミュニティ・スクールの前提である。それが、学校運営協議会で検討、実践、評価され、4年間の成果として確立されている。



宇美東中学校

「輝く生徒の育成に向けて、堅実な教育活動を細やかな手立てを講じながら進め、魅力ある学校づくりに向かっている学校」

「輝きプラン」は、生徒も教職員も保護者も地域も輝くことを想定しながら、まずは生徒を輝かせたいという学校の意気込みである。丁寧で堅実、地道な取組が少しずつ、生徒の育ちに結び付いている。コミュニティ・スクールも定期的に開催され、生徒が地域の方に話したり説明したりして参画しながら地域清掃活動を行っているのは、すばらしいことである。地域と共に子どもたちを育てる基盤づくりができている。



各小中学校のCSの取組の紹介



今号では、宇美東小学校と井野小学校の取組を紹介します。

宇美東小学校

宇美東小学校には、「学習支援部会」、「あいさつ部会」、「環境整備部会」、「読み聞かせ部会」の4つの部会があります。ほぼ毎日、CSの方々が学校にいらっしゃって、子どもたちのために活動をしてくださったり、支援をしてくださったりしています。今号では、「学習支援部会」の方々に支援していただいた「1年生 生活科 昔の遊び」の様子をご紹介します。

2月20日（金）の午前中、1年生の子どもたちは、体育館と運動場に分かれてCSの方へのご挨拶が始まり、昔の遊びを楽しみました。けん玉やだるま落としに奮闘する姿も見られ、子どもたちは夢中になって遊んでいました。外では凧揚げです。子どもたちは元気に走り回り、たくさんの凧が空高く舞い上がりました。



CSの方へごあいさつ



けん玉に奮闘



ほうきがつくれたよ



空高く上がり～！